

あべ俊子文部科学大臣が琉球大学病院を視察 ～救急医療の現状等について意見交換～

2025年7月8日（火）、あべ俊子（あべ としこ）文部科学大臣が琉球大学西普天間キャンパスを訪問し、琉球大学病院をご視察されました。

当日は、喜納育江学長、中西浩一医学研究科長、梅村武寛副病院長、看護部職員等が対応し、沖縄県看護連盟からは、本院で看護部長を務められた下地孝子会長が参加されました。救命救急センターでは救急車到着口から初療スペース、ハイブリッドER室などを見学された後、小児科外来待合スペース、ヘリポートなどを視察されました。

その後の懇談では、あべ大臣から、救急車搬送でのトリアージや医療の標準化については、看護師としての経験に基づく医療者の目線での具体的な質問があり、大学病院における教育・研究・臨床・医師派遣などの現状や課題については、ご自身の大学教員としての経験を織り交ぜながら、研究者養成の難しさや、地域における大学病院の役割や必要性について、活発な意見交換が行われました。

あべ大臣からは、沖縄県における小児科医などの医療人材の不足等の課題に対して、離島を含めた地域の医療機関と琉球大学病院が連携を強化することで、専門的で、高度な医療の提供が継続されることに対する期待が寄せられました。また、限りある医療資源や人的リソースを活用した新たな取組を進めてほしい、「前例は作っていくもの」である、との力強いお言葉をいただきました。

今回のあべ大臣との意見交換は、琉球大学病院の理念である「病める人の立場に立った、質の高い医療を提供するとともに、地域・社会に貢献する優れた医療人を育成する」に基づいた活動や取組についてご理解いただく貴重な機会となりました。



救命救急センターの視察



外来（小児科）の視察

意見交換会

